

香川檀著『ハンナ・ヘーヒ 透視のイメージ遊戯』オンライン書評会

開催日時： 2020年7月18日(土) 14:00~17:15

主催： 神戸大学国際文化学研究推進センター (Promis)

ベルリン・ダダの女性アーティスト、ハンナ・ヘーヒの初のモノグラフ『ハンナ・ヘーヒ 透視のイメージ遊戯』(水声社、2019年)を著した香川檀さん(武蔵大学人文学部教授)と評者の方をお迎えし、書評会をオンライン(Zoom ミーティング)で開催します。

参加を希望される方は7月14日(火)までに下記のお申込みURLにアクセスいただき、お申込みフォームにお名前等ご記入ください(参加費無料)。開催の3日前までにはZoom ミーティングに参加するためのご案内をお送りします。

○お申し込み先：<https://form.run/@keikoishida--1591947956>

●登壇者

香川檀(著者) (武蔵大学人文学部教授)
河本真理(書評者) (日本女子大学人間社会学部教授)
小松原由理(書評者) (上智大学文学部准教授)
松井裕美(書評者) (神戸大学大学院国際文化学研究科専任講師)

【講師略歴】

香川檀(著者)：武蔵大学人文学部教授。博士(学術)。主な著書に、『想起のかたち—記憶アートの歴史意識』(水声社、2012年)、『ダダの性と身体—エルンスト・グロス・ヘーヒ』(ブリュッケ、1998年)など。

河本真理(書評者)：日本女子大学人間社会学部教授。博士(美術史学)。主な著書に、『切断の時代 20世紀におけるコラージュの美学と歴史』(ブリュッケ、2007年【サントリー学芸賞受賞】)、『葛藤する形態 第一次世界大戦と美術<レクチャー 第一次世界大戦を考える>』(人文書院、2011年)など。

小松原由理(書評者)：上智大学文学部准教授。
博士(学術)。主な著書に『イメージの哲学者ラウール・ハウスマン—ベルリン・ダダからフォトモンタージュへ』(神奈川大学出版会、2016年)、編著に『〈68年〉の性』(青弓社、2016年)など。

松井裕美(書評者)：神戸大学大学院国際文化学研究科専任講師。博士(美術史学)。主な著書に、『キュビズム芸術史』(名古屋大学出版会、2019年【和辻哲郎文化賞(学術部門)受賞])など。

お問い合わせ先：keikoishida@people.kobe-u.ac.jp 石田圭子(神戸大学大学院国際文化学研究科)